

<白金標準先物、4100 円を固めれば自立反発へ・・・>



(出所：オアシス)

S&P 製造業 PMI が好不景気の分岐点である 50 を下回る 46.6 となり、カナダ中銀は政策金利を 0.25%引き上げを実施したが、声明文で次回の会合では見送りを示唆している。特に FRB、ECB もインフレ抑制の弊害である景気後退の意識が高まりを見せだしており、景気商品である白金標準先物は、景気後退を理由に 4372 円から週末には 4167 円まで下値を試している。

ただ今週から春節入りしていた中国市場が再開され、先週に再開された香港市場は中国政府の景気対策期待や新規感染者のピークアウトを受けて取引再開から上昇しており、中国本土も春節明けから上海市場や深セン市場も再開から上昇を強めてくると予想される。

特に 2023 年の白金市場における中国需要はカギを握ると見られており、WPIC や大手調査会社リサーチ・アンド・マーケットも中国のプラチナ輸入量が増加傾向である事を理由に供給不足を示唆している。また南アフリカの電力供給障害を受けた同国のプラチナ生産量の低下や電気料金引き上げを受けて PGM 鉱山における電力コストが 13%から 19%へ引き上げられる事など、景気後退懸念を織り込み 4200 円以下まで落ち込みを見せた白金標準先物は FOMC や ECB 理事会を終えると本来の需給要因に戻り、価格の巻き戻しを示すと思われる。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が下がり、**シグナル**も下げている。RCI は**短期**と**長期**が下げ続けるなどオシレーターは弱気を示唆している。ただ日足が **10 日移動平均線**を下回り、乖離拡大から自立反発の値動きが予想されると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,920,000 円(2023 年 1 月 30 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2023 年 1 月 30 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>